

横須賀市内で津波から命を守るためのハザードマップ

このマップは、神奈川県を示す「津波浸水想定図」を基に作りました。

予想される最大の津波が来た場合に、各地で予想される浸水深さを、7段階の色分けで表示しています。

平成27年2月、県民の命を守ることを目的として、想定外をなくすという考えのもと、県沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される、9つの地震を対象として津波浸水予測を見直し、沿岸地域における「津波高さ」または「浸水域」が最大となる、合計5つの地震による「津波浸水予測図」が公表されました。

この「津波浸水予測図」をもとに、「浸水域」と「浸水深」が最大となるように重ね合わせた図面＝「津波浸水想定図」が作成され、現在、神奈川県ホームページの「e-かなマップ」で閲覧できます。

地域の未来を考える会 WAF A

津波浸水予想深さの凡例

深さ 0.01～0.3メートル
深さ 0.3～1メートル
深さ 1～2メートル
深さ 2～3メートル
深さ 3～4メートル
深さ 4～5メートル
深さ 5～10メートル

避難情報・防災関連施設等の凡例

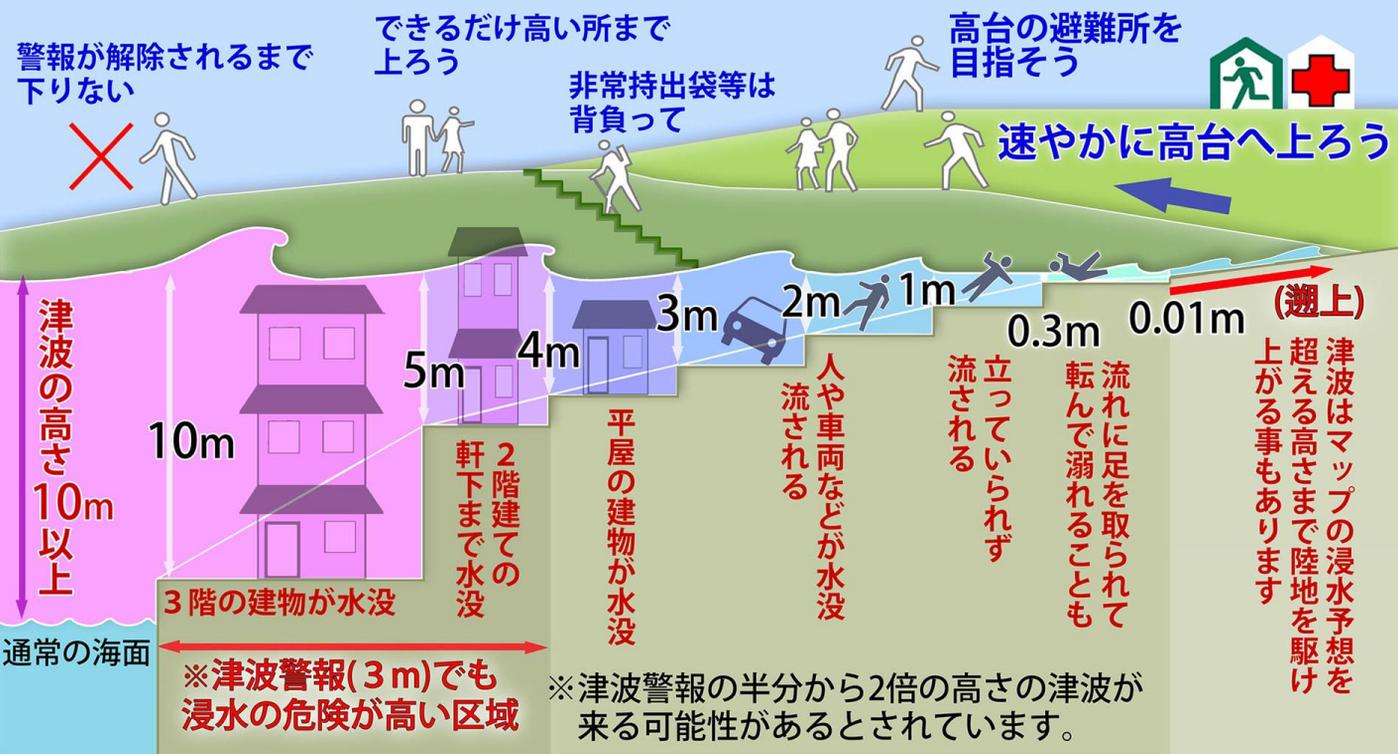
	高台へ上がる道		地域医療救護所
	階段		A E D 配置場所
	広域避難地		消防署・消防団詰所
	震災時避難所	位置情報の凡例	
	津波浸水予想区域内の 5階以上の建物 <small>(津波浸水区域内の避難所・消防団詰所等、 防災関連施設等は表示していません)</small>		
			バス停
			信号機

津波から命を守る避難行動

浸水深ごとの危険性

大地震が起きて、大きな揺れが収まったら、火の始末・安全確認・電気のブレーカーを切ってから、速やかに高台に避難することで、津波から命を守りましょう。

普段からこのマップで、自宅・学校・仕事場などに目印を付けて津波浸水区域から高台に避難する道を考えてみましょう。その道を実際に歩いてみて、危険な場所・階段・夜停電しても通れるか・などを家族や友人等と一緒に確認しておきましょう。直近の道だけでなく複数の道を考えておく事が重要です。



津波避難の3原則

津波から命を守るために一番にとるべき行動は「素早い避難」です。

東日本大震災の大津波が東北地方の沿岸部に甚大な被害を及ぼした中、岩手県釜石市内の児童・生徒の多くが無事であった事例が「釜石の出来事」として反響を呼びました。これは群馬大学の片田教授が提唱する「津波避難の3原則」を忠実に実行した結果であったと言われていています。釜石の奇跡ではなく、生徒たちが自主的に避難行動を実行した釜石の実績です。自分の命を守る！ そのことを最優先してください。

第1の原則：想定にとらわれるな

一番大事な原則です。たとえば、このハザードマップに記載されている津波浸水範囲は県が想定した最大のもので、「あくまで予想」です。相手は自然であり、どんなことが起こるかわかりません。自分のいる場所が、ハザードマップで安全と判断される場所であっても油断しないことが必要で、高台を目指しましょう。

第2の原則：最善をつくせ

一時的に避難した場所が決して一番安全な場所ではないかもしれません。その場所に留まることに固執せず、より安全な別の場所に避難できるかを考える、その時にできる最善をつくして避難行動をしましょう。逃げるのが遅くなっても、決してあきらめずに、高い場所に上られる道を探してください。

第3の原則：率先避難者になれ

私たちは「自分は被害にあわないだろう」と考えがちです。この考えを排除し、率先して避難することが大切です。想定に頼らず、自分たちで避難を判断することは、とても難しいことです。しかし、いざという時には想定以上のことを判断しなければならない事態が起こることを考えておく必要があります。避難する最初のひとりになることを、ためらわないでください。

